

中国と北朝鮮との国境貿易の実態(II)

延辺朝鮮族自治州を中心として

李 虎 男

第二節 延辺の対北朝鮮国境貿易の構造

次に延辺の対北朝鮮国境貿易で取り扱われる商品を見てみたい。表4で見ると、一九九二年には、トウモロコシが全体輸出の三三・七

%を占め、九三年には三〇・七%を占めていた。ところが、九六年になると、小麦粉がトウ

モロコシにかわり五五・七%を占めた。九七年には、小麦粉が二一・六%、白米が三一%にな

っており、九八年には、小麦粉が一八・二%、白米が三一・七%を占めるなど、延辺と北

朝鮮と貿易は、食糧の輸出が圧倒的であることが分かる。すなわち、これは九〇年代から深刻

化した始めた北朝鮮の食糧危機が延辺との貿易量に反映した結果である。しかし、九五年からは、国際社会から北朝鮮に対する食糧支援が行

われ始めた。その食糧の大部分がトウモロコシであるため、延辺から輸出し続けられたトウモ

ロコシの量は著しく減少し、一方、小麦粉と白

米の輸出量が増加した。二〇〇〇年からは、既

存の輸出パターンから遺脱し、電気商品の輸出

が著しく増加した。つまり、中国産のコン

ピュータ、携帯電話、電話機、カラーテレビ、

VCDなどに対する北朝鮮からの注文が増え、輸出量も著しく増加する傾向を見せている。

一方、延辺は北朝鮮から何を輸入していたのか。主な輸入商品は、水産物、木材、自動車、鉄鋼等である。

表5で見ると、延辺が北朝鮮から主に輸

表4 90年代以後、延辺の対北朝鮮国境貿易の主要な輸出品目 (単位: 万ドル)

商品名	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
トウモロコシ		2094	4449	1756	39		163	86	220		162	259
ゴマ油		156	348	87	27	18	7	40	24	37	49	58
落花生		348	435	582	4							96
冷凍豚肉	191	392	325	407	4	7				16	28	62
冷凍牛肉	34	128	70	35	21	3				24	9	17
缶詰	1631	527	137									
砂糖	4	142	275	147	127	10	14		20	84	161	246
タバコ	72	152	45	14	2	187	36	169	63	168	151	196
繊維原料	14	312	122	388	209	80				214	691	747
絹織物	41	253	66	368	124	48		11		37	90	111
小麦粉					140	771	527	404	238	297	339	362
石炭				1149	618	31	34	28	92	188	128	164
精油				319		61	105	132	247	310	304	221
白米							755	703	840	1268	903	1138
電気商品*										1401	1950	2448
総額	3786	6198	14468	11371	3035	1284	2434	2212	4090	4044	4965	6125

出所 延辺対外経済貿易合作局

表5 90年代延辺の対北朝鮮国境貿易の主要輸入品目 (単位: 万ドル)

商品名	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
自動車	186	341	5335	5588	97		54	50				
鉄鋼	1034	356	8242	3280	683	62	334	39	280	364	149	259
鉄		27	19	192	95		187	19				16
水産物	283	62	789	659	634	257	81	169	90	164	146	181
化学肥料	149		382	2	12	74	24		190	86	69	
木材	443		419	332	89	217	193	217	240	253	184	371
全体	3668	8394	16264	11217	2388	834	1101	951	982	848	658	1727

出所 延辺対外経済貿易合作局

入しているのは、水産物、自動車、鉄鋼、木材等である。さらに少量の化学肥料、鉄等である。ここで注目すべきことは、九三一九四年に北朝鮮からの自動車の輸入が圧倒的に多いことである。自動車生産量がほぼ皆無とされる北朝鮮から自動車を輸入することは極めて異常である。

筆者が友人から聞いた話によると、北朝鮮は日本、韓国から中古車を安く買い、それを中国に再販売する、というのである。そして、別の件から、北朝鮮は在日朝鮮人を通じて日本の中古車を安く買い取り、それをそのまま清津港、羅津港まで持ち込み、そのまま現地で中国業者に転売している、とも聞かされた。いずれにせ

よ、自動車の輸入は、一言で言えば「密輸」である。九五年から、北京中央政府の強い指示によって、取締りが厳しくなり、現在は密輸がほぼ不可能な状態になった。

「経済改善措置」が採られた九七年からは、木材、鉄鋼、水産物が基本的に安定化した輸入商品になっている点は注目される。

第三節 延辺の対北朝鮮国境貿易の窓口

現在、延辺には八つの対北朝鮮貿易窓口がある。その中の七箇所は、豆満江を挟んで、北朝鮮と直接貿易を行っている。

1、図們税関 一九二四年に成立した税関として、北朝鮮の南陽税関と接している。図們税関は道路と、鉄道二つを利用するいわゆる「近代的な税関」である。現在、延辺と北朝鮮との国境貿易の最も重要な通路であり、貨物運送量もトップである。

2、圈河税関 琿春市京新郷に位置しているこの税関は、北朝鮮の元汀里税関と隣接している。一九三七年に成立したが、八二年に閉鎖されたが、九五年には再開された。現在は、北朝鮮の羅津―先鋒地域に行く唯一の通商税関であり、さらには、「琿春―羅津―ブサン」、「琿春―羅津―秋田」の国際貨物船が往来するため、貨物量は図們税関に続く第二位になっている。

3、三合税関 龍井市に位置しているこの税関は、一九三〇年に設置され、北朝鮮の会寧税関と隣接している。北朝鮮の清津市と比較的に近いので、貨物量も相当多い。最近、北朝鮮を訪れる観光客もこの税関を利用している。

4、開山屯税関 龍井市に位置しているこの税関は、一九二三年に設置された。文化大革命中一時閉鎖されたが、九二年からは再開された。九四年には、中朝双方が五〇%ずつ投資し、架け橋を新たに建設し、現在利用している。

5、南坪税関 和龍市に位置しているこの税関は、一九二九年に設置された。北朝鮮の七星里税関と隣接しており、文化大革命の時期には他の税関と同じように閉鎖された。九四年に再開すると共に、中朝双方が投資し、新しい橋を建設した。

6、高成里税関 和龍市にあるこの税関は、北朝鮮の両江道三常税関と隣接している。一九二九年に設置され、長い間閉鎖状態が続いてい

表6 90年延辺対北朝鮮各税関輸出入貨物表 (単位: トン)

年度	図們	沙陀子	圈河	南坪	高成里	三合	開山屯
1991		12675		5900	11643		
1992		52239		19116	18693		
1993		47837		15247	14870		
1994		25786		27907	13235	37000	6300
1995	1709007	6650	4788	6626	10044	27400	2500
1996	482531	4960	23773	39148	15024	16000	7500
1997	408266	5575	70021	74001	51000	16600	3000
1998	252958	2412	41387	55214	33610	5600	600
1999	390000	932	11684	3483	17190	1114	

出所 延辺対外経済合作局

た。ごく最近再開した。主に木材の輸入をしている。

7、沙陀子税関 琿春市に位置しているこの税関は、北朝鮮の新星税関と隣接している。九五年、圈河税関が成立する前までは、貨物運送量が相対的に多かったが、最近、貨物量が低下している。

上の表で見ると、九〇年代前半の貨物運送量は、主に、沙陀子、南坪、高成里を利用して行われていたが、九〇年代の後半になると、すべての税関を全面的に利用するようになった。特に、図們税関利用率は、他の税関に比べて圧倒的である。

第四節 国境貿易から見た双方の問題点

ここでは、延辺と北朝鮮との間で行われている国境貿易の実態から、問題点を明らかにしたいと考える。まず、延辺側から見よう。

① 延辺と北朝鮮との国境貿易が萎縮状態になっている点である。延辺対北朝鮮の国境貿易は、九〇年代の上半期まで、高い成長率を見せた。しかし、九〇年代の後半からは、急速なスビードで低下しつつある。一九八二年の五十四万ドルが九三年には三億二七三万ドルまで増加し、最高レベルの輸出入総額を記録したが、九五年から大幅に減少し、九八年には三一六三万ドルと、九三年の約一〇分の一程度に縮小した。縮小の大きな原因は、北朝鮮が深刻な経済難、エネルギー難等の不安要因を抱え、企業も不正常な状態に陥り活動自体が不可能に至っていることである。八〇年代、北朝鮮はロシア極

東地域に一五〇〇〇人前後の採伐工を派遣した。採伐工の給料は木材伐採収入の三五・五％として、残りの収入で、鉄鋼、木材、自動車等を購入して延辺に持ち込み、延辺のトウモロコシ、豚肉、軽工業品等とパートナー貿易を行った。

ところが、九五年以後から二〇〇一年まで三〇億ルーブルの債務をロシアに支払うため、採伐工の給料すべてを債務返済に充てたのである。ロシアも九五年から鉄鋼、木材、自動車の輸出を厳しくコントロールし始めた。従って、「延辺―ロシア―北朝鮮」という図們江デルタの国境貿易構造が崩壊した。

一方、北朝鮮は特産物であるマグネシウム、鉱石等原価の高い商品を日本、韓国に輸出し、日本、韓国からは中古自動車、鋼鉄等を輸入し、延辺の食料、生活品等と物物交換するという取引を実施してきた。ところが、九〇年代の半ばからは、深刻な経済危機、外貨危機等に陥り、企業は勿論、貿易会社もまたもな経済活動が不可能という状況に到った。このことが、国境貿易を瞬く間に崩壊させた重要な原因の一つである。

② 輸出入商品構造が極めて不合理であるため、競争の激しい市場経済の中では商品を販売することが不可能になった点である。すでに指摘したように、延辺は、北朝鮮から自動車、鋼鉄、木材、水産物等を主に輸入している。ところが、中国から見ると、自動車の輸入に関しては、政府からの厳しい制限のみならず、国内の自動車価格も急激に低下したため、国境貿易を

通じて輸入された自動車を販売することが不可能となった。鋼鉄も政府からの制限のみならず、国内の生産量が著しく増加したため、国境貿易を通じて輸入する事が困難となっている。

一方、輸出商品を見ると、トウモロコシ、白米、ガソリン、石炭等は、政府からの正式な許可無しには輸出が不可能である。さらに、ほとんどの輸出商品は、北朝鮮側が一方的に決めて中国側に提出した品目であるため、長期的需要が少なく、需要変化も頻繁に変化するのである。

③ 貿易会社の零細な規模と資金力の弱さである。今回の調査では、延辺にある貿易会社の約七〇％以上が仲介貿易を行っていることが判明した。これは、自営貿易と仲介貿易のバランスが著しく崩れているのみならず、北朝鮮の経済が完全に回復されない状態で行う貿易は、未払い金額も増加するばかりである。従って、流動資金が極めて不足しており、輸出入はアンバランス状態が続いている。さらに、朝鮮族は北朝鮮のパートナを過度に信用しすぎたため、市場変化を正確に把握出来ないままに、一方な貿易黒字ばかり増加しつつある。

④ 貿易の方式が単純で、決済方式も単一である点である。現在行われている国境貿易は、一時的に物資交換あるいは現金交換で終るという、かつての古い貿易形態で行われている。更に、決済方式も単純であるため、銀行決済は行われず、国際的に通用される貿易決済システムは執行されていない。そのため安定性と透明性が非常に低い。

次に、北朝鮮側の問題点を検証してみたいと思う。

① 中国との国境貿易の減少は、短期的な原因によって発生したものではなく、長期的に積み重ねられてきた、北朝鮮の産業基盤の脆弱性から発生したものである。つまり、商品化された製品の生産不足、輸入能力の低下による交易条件の悪化は、外貨不足に悩む北朝鮮側の負担ばかり増加させていくことである。

② 北朝鮮の貿易環境が劣悪で、契約実行率が極めて低い。北朝鮮の深刻な経済不振が長期化し、正常な貿易環境はすでに崩壊している。最近、北朝鮮の契約実行率がかつての三〇％から一〇％前後に転落したと言われている。さらには、資金不足によって、通商窓口で貨物を受け取る時に、もともとと限られている貨物の品目をむやみに変更したりすることが頻繁に発生している。また一つの貿易会社が中国の複数の貿易会社と契約を結ぶケースも多発している。

③ 通商地域で頻繁に発生する「乱集金」問題である。九六年まで、中国の貨物車が北朝鮮側が指定した地域まで自由に往来して、貨物を受け取ってきた。勿論、この時期には税関通過、検査等は自由自在であった。ところが、九七年からは、税関の職員が数多くの名目で力ネを徴収し始めた。従って、中国側から見ると輸入商品の費用を不当に増加させる結果となり、国境貿易の全体的なバランスに悪影響を与えている。さらに、深刻なのは、北朝鮮の税関管理員による要求が日常化し、要求に応じなければ、中国側の入国は勿論、貨物さえ差し押さえられ

ることになる。

④ 深刻な外貨不足に直面した北朝鮮の貿易会社は、商品を受け取っても、決済をせずに、そのまま逃げる現象が多発している。彼らは、「我々は同じ民族だから、一緒に『苦難の行軍』をしよう」と言いながら、決算を明日、明日にと不当に延ばし、結局は決算せず、品物だけ受け取って北朝鮮に逃げ込むという現象である。不完全な統計によると、現在延辺側が持つ北朝鮮側の未払い金額は二〇億ドルを超えていると言われている。これも、正常的な貿易発展の障害となる重要な原因であろう。

第五節 結びに加えて

これまで、九〇年代を中心に延辺と北朝鮮との国境貿易の実態を考察してみた。本来ならば、劇的な変化をもたらす延辺と北朝鮮との国境貿易も国内外の複数の要因によって、スムーズに発展せず、数え切れないほどの問題を抱えてきた。とはいえ、延辺と北朝鮮の国境貿易は、世界で最も「閉鎖された国家」というレッテルを貼られた北朝鮮に相当なインパクトを与えてきたとも言えよう。

最後に、このインパクトについて簡単に論じたい。

① かつて、社会主義の「大哥」と呼ばれていた旧ソ連及び東ヨーロッパの崩壊に伴って、中国は現在、北朝鮮にとつては最大の貿易パートナーとなっている。特に、深刻なエネルギー、食料、生活用品等、多くの製品が中国側から北朝鮮に提供されている。国家的な次元からの貿

易、無償援助等を除く、大部分の貿易は、国境貿易を利用して行なわれている。従って、深刻な経済難、生活難に陥っている北朝鮮にとつての国境貿易は、言うまでもなく大きなメリツトがある。さらに、国境貿易は、北朝鮮の地方との間で直接取り引きで進められているため、地域経済に相当なインパクトを与えているのも確かである。

② 農村生産体制の崩壊、相次ぎ発生する自然災害等によって、北朝鮮は過去例が無い程の厳しい食糧危機に直面し、この数年間に数百万人を超える死者を生み出した。国際社会からの支援以外にも、国境貿易によって、輸入された食糧が北朝鮮の飢饉状態の改善に重要な役割を演じている。それは、北朝鮮における社会的混乱を防ぎ、社会秩序と社会安定を維持させ、政権を安定させるために計り知れない重要な役割を果たしていると言わざるをえない。

③ 国境貿易を含む物的、人的交流は、北朝鮮国民に「改革・開放」が中国社会にもたらした画期的な変化を知らせると同時に、北朝鮮における改革開放を促進させる重要な精神的作用になるものと思われる。金正日委員長は二回にわたる中国訪問以後、内閣に中国式改革開放研究チームを設置し、中国の変化過程の研究をするよう指示したとされる。昨年の「七・一経済改善」政策もこのような脈から打ち出された一つの出来事であったが、市場経済に関する基本的な原理等を正確に把握せずに進行させたため、失敗を重ねている。

④ 現在中国国内には、四〇万人前後の脱北者

がいると言われている。彼らは長期間中国で生活し、変化しつつある中国の現実的な生活ぶりを体験しており、いつか北朝鮮も改革開放政策を実施されることに期待感を有している。現在中国には、二万人前後の北朝鮮官僚が滞在していると言われているが、彼らも中国の変化について新たな認識を有しており、いつか自分も中国の官僚と同じように北朝鮮を率いて改革開放の路を歩きたいと強い期待感を持っている。

(リ・コナン：中央大学大学院法学研究科国際政治学専攻博士課程)

参考文献

- 1、今村弘子『中国から見た北朝鮮経済事情』、朝日新聞社、二〇〇〇年一月
- 2、王勝今編『現代北朝鮮経済研究へのアプローチ』、金沢大学経済学部、一九九七年
- 3、林今淑『朝鮮経済』、吉林人民出版社、二〇〇〇年九月
- 4、陳龍山編『朝鮮半島問題研究文集』(1)、(2)、(3) 吉林省朝鮮、韓国学会
- 5、楊紹全『中朝関係通史』、吉林人民出版社、一九九六年
- 6、孫乃民編『吉林省经济社会形势分析与予測』、吉林人民出版社、二〇〇二年十二月
- 7、朴承憲編『延辺経済形势分析与予測』、延辺大学出版社、二〇〇一年一月
- 8、金強一編『中国朝鮮族社会の文化優勢と発展戦略』、建辺人民出版社、二〇〇一年二月
- 9、韓国開発研究院『北韓経済発展戦略の模索』、韓国開発研究院、二〇〇二年十二月
- 10、笹川平和財団『朝鮮半島の将来と国際協力』、笹川平和財団、二〇〇二年三月